

第10回評価センターFD・SDシンポジウム

開催期日 平成22年11月22日（金）
テーマ 第2期中期目標期間における自己点検・評価
内容等

1. 第2期中期目標期間の国立大学法人評価制度
—実績報告書の変更点・留意点等を中心に—

説明者：評価センター長 熊田 亮介

2. 各学部等における自己点検・評価の取組例

発表者：評価委員会専門部会委員

教育文化学部 教授 志立 正知

医学系研究科 教授 大友 和夫

医学部附属病院 教授 近藤 克幸

工学資源学研究科 教授 玉本 英夫

評価センターでは、「第2期中期目標期間における自己点検・評価」をテーマとした第10回評価センターFD・SDシンポジウムを11月22日に開催しました。

はじめに吉村学長から、「第2期中期目標・中期計画における項目数は、第1期と比較すると3分の1程度となっているが、その中には多くの事項が凝縮され盛り込まれているということ、また、第2期における国立大学法人評価制度は簡素化されているが、学内における自己点検・評価は手を抜かず、6年間の行程表に沿って各年度の年度計画を着実に遂行し、6年間で積み上げて行って欲しい」との挨拶がありました。



続いて熊田センター長より、第2期中期目標期間の国立大学法人制度に関し、次のような説明がありました。（一概略）

<中期評価>

- 4年経過後に実施していた「暫定評価」は実施しない。
（第2期中期目標期間終了後の平成28年度のみ実施。）

<年度評価>

- 「教育研究等の質の向上の状況」は、実績報告書の「全体的な状況」欄へ総括的に記載。（年度計画の事項ごとの記載がなくなった。）
- 「業務運営・財務内容等の状況」は、年度計画の事項ごとに自己評価を4段階の「記号」のみで記載。（進捗状況は国立大学法人評価委員会のヒアリング時に確認）
なお、中期目標期間の3年終了時（平成25年度）に実施する年度評価では全ての事項（「全体的な状況」、「項目別の状況」、「特記事項」）について進捗状況を記載する。（※3年終了時に行う「平成24年度評価」は、詳細な記載が必要となるということ。）

引き続き、評価センター評価委員会専門部会委員の4名の先生方から、各学部等のPDCAサイクル等の取り組みに係る紹介がありました。

- ◇ 教育文化学部 志立 正知 教授
教育システムにおけるPDCAサイクルの確立を目指して
－教育文化学部の取り組み－
 - ◇ 医学系研究科 大友 和夫 教授
保健学専攻・保健学科における自己点検・評価の取組
(第1期中期目標中期計画, 保健学専攻の外部評価の例)
- ◇ 医学部附属病院 近藤 克幸 教授
医学部附属病院における自己点検・評価の取組例
～ IS09001を活用したPDCAサイクルの実践～
- ◇ 工学資源学研究科 玉本 英夫 教授
工学資源学部／工学資源学研究科における自己点検・評価の取組例

当日は、各部局において、評価に関わっている教員や事務職員をはじめとし、45名ほどの参加者があり、活発な質疑応答が展開されました。時間の関係上、当初予定をしておりました「パネルディスカッション」を変更し総括質疑としましたが、今後も、皆様方からのアンケートによるご意見等を参考とし、時期や状況に応じた内容でのシンポジウムを企画していきたいと思っております。